

平成 30 年度 流通魚介類の PCB、有機スズ等汚染実態調査(概要)

PCB 等の化学物質については、流通魚介類の汚染状況を把握するため調査を実施している。

平成 30 年度の結果は以下のとおりである。

1 調査の概要

(1) 平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで

(2) 調査検体及び検体数

中央卸売市場に流通する魚介類の可食部のべ 737 検体

(3) 調査対象物質

PCB、TBTO、TPT、ドリン類（3 種類）及びクロルデン類（5 種類）

※トリブチルスズ化合物（TBT）については、昭和 60 年 4 月当時の厚生省通知により、市場流通する魚介類を対象に検査の実施が求められている TBTO（トリブチルスズ化合物の一種）に換算した。

(4) 検査機関

東京都健康安全研究センター
一般財団法人 日本食品検査

2 調査結果

表 1 平成 30 年度流通魚介類の実態調査結果

単位: ppm(湿重量)

物質名		検体数	検出数	検出率 (%)	最大検出値	平均
PCB		177	133	75.1	0.081	0.005
TBTO		120	33	27.5	0.063	0.001
TPT		120	65	54.2	0.065	0.004
ドリン類	アルドリン	40	0	0	—	—
	デイルドリン	40	0	0	—	—
	エントリン	40	0	0	—	—
クロルデン類	trans-クロルデン	40	1	2.5	0.002	0.000
	cis-クロルデン	40	2	5.0	0.002	0.000
	オキシクロルデン	40	0	0	—	—
	trans-ナクロル	40	0	0	—	—
	cis-ナクロル	40	0	0	—	—

3 まとめ

- (1) PCBは177検体中133検体(75.1%)、TBTOは120検体中33検体(27.5%)、TPTは120検体中65検体(54.2%)から検出された。
- (2) ドリン類(3種類)は検出されなかった。また、クロルデン類(5種類)のうち、trans-クロルデンが40検体中1検体(2.5%)、cis-クロルデンが40検体中2検体(5.0%)から検出された。trans-ノナクロル、cis-ノナクロル、オキシクロルデンは検出されなかった。
- (3) PCB、TBTO、TPT及びクロルデン類の検出値は、いずれも食品衛生法の基準値等の範囲内であり、食品安全上問題となるものではなかった。

用語説明

PCB	ポリ塩化ビフェニルの略
TBTO	トリブチルスズオキシドの略。TBT化合物のうちの一つで、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)の第一種特定化学物質に指定されている。
TPT	トリフェニルスズの略、複数の物質があるTPT化合物の総称
ドリン類	有機塩素系農薬
クロルデン類	有機塩素系農薬
ppm(ピーピーエム)	濃度の単位で100万分の1を表す。 この調査においては $\mu\text{g/g}$ 、 mg/kg と同じ意味